



会 報

第18号
平成3年2月

社団法人 北海道美術館協力会
札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-4025



北海道立旭川美術館蔵

新収蔵品紹介

百瀬 寿「Square-Between Pink and Yellow」

百瀬 寿は、1944年札幌生まれ。北海道教育大学旭川分校と岩手大学で美術を学んでいる。1969年以降、シルクスクリーンを用いて、色彩のグラデーションの効果を生かした作品を制作し、国内外で高い評価をうけている。この作品は、第25回シェル美術賞展3席受賞作（1981年）である。エアブラシを用いてアク

リルで彩色しており、赤、紫、黄の鮮やかな色彩の対比とグラデーションが美しい。百瀬は、純粋に色彩そのものの効果を追求してきた。近年は、キャンバスに和紙を貼りつけるという制作を行っているが、色彩表現を追求する姿勢は一貫している。

会員サービスについて 考える

願いは美術文化の振興発展

須貝 今日、協力会が行っている会員へのサービス等についてお伺いしてまいりたいと思います。私も会員のひとりとして会のことは理解しているつもりなのですが、おさらいの意味で協力会の目的といったものについて先ずお話いただきたいと思います。

鈴木 これは、定款に定められていますが1番目は道立美術館等の事業活動に協力すること、2番目は美術に関する道民の知識と教養の向上を図るため必要な事業を行うことです。これらによって美術愛好者を増やしていくなど、本道の美術文化の振興に寄与するということが集約されると思います。

拡がりつつある会員の輪

須貝 協力会は、本道の美術文化向上のためにたいへん大きな役目を担っていると思うのですが、その会を支える会員の数や会費の納入などはどんな状況なのでしょうか。

鈴木 会員には年会費1万円の個人会員・3万円の法人会員・3千円の賛助会員（学生）・ボランティア会員などがあります。

12月末現在、個人会員1,042名、法人会員77名、賛助会員48名、会の中核となって奉仕活動を続けているボランティア会員は、旭川美術館のボランティアを含め161名おります。

個人会員は、札幌市のほか約40市町村の方が200名程加入されています。

ただ、残念なことに個人会員の中には会費未納の方が約20%程おります。これらの方は会員としての継続・退会が把握できないこともありまして実質会員は1,000名を下回るということになります。

注目を浴びる美術館への事業協力

須貝 発会当初は、会員も350名程度だったと聞いていますが、この12年間で相当の発展があったということになりますね。ところで、今までの美術館に対する事業協

員の皆さんの美術に対する関心が高まる中で「会員サービス」が注目を浴びてきました。今回は、それを核として取り巻く問題点等について須貝寿子会員が鈴木英二専務にお尋ねしました。



力などの実績についてお伺いしたいのですが。

鈴木 会員数は約3倍くらいにはなっていますね。しかし、美術館も増えてきていますし、まだまだ会員数は十分ではありません。

美術館への費用面での協力は、事業協力として過去11年間で約23,000千円となっておりますが、協力会の10周年記念事業として行った「名画を贈る会」では、9,300万円を募金しマリローランソンの絵2点を寄贈しております。

また、今後の活動の資金は、美術振興基金として現在約14,000千円程度の積立額に達しております。

人的な面では、ボランティアの皆さんが美術館コレクションギャラリーの解説や美術関係資料の整理・美術の普及を念頭においた関連商品の販売サービス・展覧会のPR、さらにはサマーミュージアムのお手伝い等々多角的な協力をしておりまして、その活動状況は全国的にも注目を浴びているところでもあります。

その他、来館者サービスとして安い料金で駐車場を提供していますし、会員証による展覧会の観覧などは美術振興に大きく貢献していると言えるのではないのでしょうか。

魅力ある会員へのサービス

須貝 幅の広い協力活動がなされていることに、会員としての誇りを感じることが出来ました。

只今、会員証による展覧会の観覧という話が出ましたが、会員に対するサービスについてお話しいただけますか。

鈴木 会員の方が（新規加入を含めて）会費を納入されると、その年の会員証が交付されます。その会員証によって、近代美術館・三岸好太郎美術館・旭川美術館・函館美術館の道立美術館4館と財団法人札幌彫刻美術館の常設展（コレクションギャラリー）や館主催の特別展については同伴者1名とともに観覧することが出来るようになっていきます。

また、近代美術館内の売店では図録などを除く商品は1割引、レストランでの飲食は2割引それぞれサービスを受けられます。

さらに、その時どきに依じて会報・展覧会資料などの送付がなされますし、美術研修旅行への優先参加や割引もされるようになっていきます。

このほか、ボランティアを希望する婦人のための美術講座や会員相互の親睦を図る「会員のつどい」などもやっております。

比率の高い会員へのサービス還元



須貝 色々と会員サービスにご配慮をいただいて会員としては有り難いのですが、経費などの面で運営が窮屈といったことは出てこないのでしょうか。

鈴木 実は、そのところが大きな悩みの種なんです。会費はできるだけ美術館の事業協力や基金積立にまわしたい。しかし、一方では会員サービス面を縮少すると会員拡大が阻害される虞もある。その接点の取り方が難しいところです。

これは皆さんによく理解していただきたいことなのですが、会員証による入館者の料金は、実数に応じて協力が主催者側に支払う仕組みになっているのです。その支払額は会費収入総額の42%ほどになっています。その他会報・資料の配布など、もろもろを含めると会員サービス経費が66%くらいになっているのです。会の運営には事務費等もかかりますので、協力事業費や基金積立金などが思うように増えない、圧迫されるといった面も出てきております。

今後の会員サービスは

須貝 お話をうかがって会員に還元されている比率は随分高いんだなあと驚いたわけですが、今後会員サービスについて何かお考えはあるのでしょうか。

鈴木 会員サービスは縮少させると、会員拡大にマイナスとなって返ってくるでしょうし、出来るなら縮少はしないで会員増を図るのが理想と考えています。

しかし、1万円会費でスタートした当初からみますと会員証を使える美術館が増えてきていますし、利用頻度も高くなってきています。また、会員証利用には会員間に相当の傾斜がありまして、これらを出来るだけ広く平等にということも課題のひとつです。

いずれにしても、会員サービスを取り巻く背景の変化に対応した検討が必要になると思います。ただ、これは今後における会員増の進展状況如何にかかっていると云えるでしょう。

最重要課題は会員拡充

須貝 発足以来、皆さんが随分苦勞を重ねボランティア精神で今まで継続されてきた協力は、全国的にも高く評価されておりますし、今後ともますます発展を続けていただきたいと思いますが、今までのお話から当面する大きな課題は会員拡充ということになりましょうか。



鈴木 そういふことになると思えますね。会員サービスをより充実させ、美術愛好の仲間を増やし、本道の美術振興を図っていくためには会員の輪を大きく広げてスクラムを組むことが必要なのではないのでしょうか。

現代は、個人も法人も何らかの形で社会還元をしているという意欲の高い時代代だと思います。人によって還元の選択肢はまちまちだと思いますが、皆さんが認める還元の受け皿としての協力を育て、PRしていくことが大切だと思います。

会報発行の回数を増やして皆さんの意見等もどんどんいただく。男女を問わず協力を希望する方の受け入れ体制をつくるなど骨格の幅を広げる時期に来ているのではないかと考えます。

会員ひとりが1人を増やせば、当面の目標は達成されることになりそうですので是非ご協力を賜りたいと思います。

須貝 私どもも、できる限りのご協力をしてみたいと思いますので、今後ともどうぞ頑張ってください。本日はお忙しいところ有難うございました。

鈴木 こちらこそ、大変有意義なお話ができ嬉しく思っています。ますますのご理解ご協力をお願いします。今日は有難うございました。

「よかったネ！ よかったヨ！」

第8回「会員の集い」が、昨年12月5日午後5時10分から北海道立近代美術館の講堂とロビーにおいて開催されました。

当日は天候にも恵まれ、そのことも手伝ってか来賓を含め210名の方々が参加し、会を盛り上げてくれました。

●手づくりの味でいこう

この会合を所掌する事業部会は7月初旬から始動し、関川事業部長はじめ各関係理事の熱心な討議により「手づくりの味でいこう」という基本がまとまりました。

部会も何度か開き模索を続けた結果が「音の旅人」のスライドによる紹介であり、参加者の皆さんがひととき子どもにかえて楽しむプレゼントゲームだったのでした。

●感動をよんだ「音の旅人」

武井会長の挨拶・関川事業部長の経過説明と作家紹介のあと、照明がおちシーンと静まりかえった会場に鈴木雅子解説部員の静かなナレーションが流れます。

テーマ音楽とともにスクリーンに映し出される版画は道立近代美術館が所蔵する「音の旅人」をスライドにしたもの。収蔵6巻のうち5巻はボランティア部が寄贈した渡会純价先生の作品なのです。映写・解説が終ると場内には感動の波が満ちていたようでした。

照明が明るくなり、渡会先生と片山解説部長の対談は興味深い版画の世界の話であり、2人が降壇するとき拍手が鳴り止みませんでした。

●子どもにかえったひととき

長谷井真信特別会員の来賓挨拶、鈴木専務の主催者挨拶のなか、阿部理事の司会でパーティはすすみ、法人会員グランドホテルのサービスあふれる豪華料理に舌づつみを打つこと小1時間。本会企画のアイデアマンでもあった浦田理事の演出で参加者全員がひとつの輪となり、大

童生理事が扮するサンタクロースが現れて、皆さん子どものようにはしゃいでプレゼントゲームを楽しみました。

●めざましい、ボランティア部員の活躍

「手づくりの味でいこう」まではよかったものゝ、実際にそれをすゝめてくれるスタッフをどうするかで悩んでいたところ、ボランティア部員が全面的な協力を申し出てくれました。渡会先生の協力を得ながら何回もリハサールを重ね出来上がったのが「音の旅人」(スライド・解説)なのです。

この外、受付・会場設営・プレゼントゲーム・特設売店など、相馬ボランティア部長が40名近いボランティア部員の陣頭にたって動いてくれました。

●むくわれた苦勞

函館・旭川・小樽など遠方から参加された方々、新しく会員となって参加された7名の方など、巾広い層の皆さんが「よかったネ！ よかったヨ！」の言葉を交しお互いに別れを告げたのは午後7時30分。

スタッフ一同は安堵とともにプレゼントゲームで描いたあの人輪が、ますます拡がることを祈ったのでした。



サンタクロースの出現にみんなおはしゃぎ

ありがとうございました。

■ プレゼント用品をご寄贈いただいた方々に心よりお礼申し上げます。

- ・中西印刷株式会社様
- ・石田禎子様
- ・株式会社北海道共済サービス様
- ・佐藤哲子様
- ・株式会社日本交通公社海外旅行札幌支店様

- ・株式会社太平洋観光札幌様
- ・榎本栄子様
- ・サッポロステンドグラス様
- ・金子誠治様

■ プレゼントゲームでプロなみの司会・進行をお手伝い下さった方をご紹介します、お礼申し上げます。

- 財団法人札幌市青少年婦人活動協会
- 業務課長 大築 覺様
- 業務課指導員 下川原清紀様

ボランティアの活動

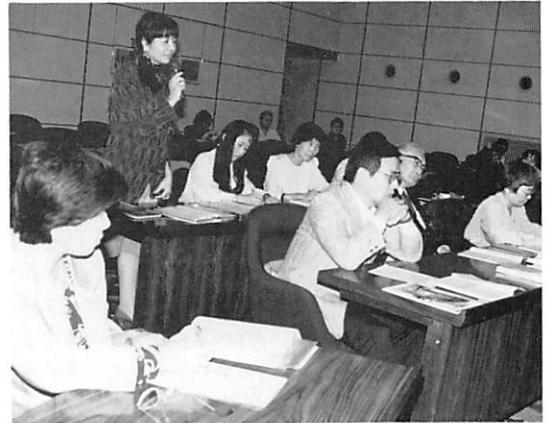
全国的に高い評価を受けた 協力会のボランティア活動

ボランティア部の売店部門では「ひろば」、解説部門では「なかま」という部内広報紙を発行していますが、昨年12月に発行された広報紙の中には、いずれも「全国社会施設ボランティア交流会」の記事が大きく取り上げられています。

この交流会は昨年10月、埼玉県嵐山の国立婦人教育会館が開催したもので、全国から公民館、美術館、図書館といった施設・福祉などのボランティアや職員が集って、悩みを打ち明け、理解を深め、将来を語るといったもの

でした。

その中で北海道の発表を聞いた参加の皆さんから、美術館協力会ボランティアを目指そうというくらい高い評価をうけました。



実情発表をする片山解説部長

ボランティア養成講座に 取組む19名

昨年10月20日に婦人美術講座を修了し、ボランティア養成講座にすすんだ会員は、現在のところ売店部門6名、

解説部門6名、資料部門7名となっております。

各部門とも昨年中に8～9講座を終了しました。本年は3月までに11～14講座を予定されています。受講生は、それぞれの部門で専門的な研修に取組んでおり、新年度からボランティア部員として、その活躍に期待が寄せられています。なお、新人ボランティアの入部式は4月5日に予定されています。

—お 知 ら せ—

・平成3年度の婦人美術講座は、例年どおり、4月から開催することを計画しております。
この講座は美術館ボランティアとして活動される方の養成を目的としたものですが詳細は決定次第、新聞等で周知を図る予定となっております。

・例年好評を得ております美術研修旅行は、国内・海外ともに本年も実施予定で、具体的な企画について検討をすすめているところです。決定次第会員の皆さんにはお知らせすることいたしますが、たくさんの参加希望者が予想されています。

○ご寄付ありがとうございました。

・札幌市豊平区里塚一五八一三二
宮川明・美智子様より美術振興基金にと五、一九〇円の寄付がありました。心よりお礼申し上げます。

・このたび売店の基金箱を開封させていただきましたが、みなさんから寄せられましたご厚志は二三、三一八円でありましたので報告とともにお礼を申し上げます。

—北海道立近代美術館—

平成3年度の当館の展覧会事業を紹介します。まず昨年「これくしょん・ぎゃらりい」として新たにスタートした所蔵品による展覧会は、新年度も企画性やバラエティーに富んだ内容のものを予定しています。その主なものを紹介すると、常設展示室全室を使った「エコール・ド・パリと北海道の画家たち」展（6月5日～8月25日）、そして「北の個性派」展（8月30日～11月24日）があげられます。

エコール・ド・パリ華やかな1920年代から30年代、北海道においてもヨーロッパの新しい美術思潮を吸収して活気ある動きをみせました。「エコール・ド・パリと北海道の画家たち」展では、この同時代の二つの画家たちの青春を、資料を織り混ぜながら数々の作品によって綴ってみようとするものです。また「北の個性派」展では、北の風土の中から自己の芸術を築いていった岩橋英遠、神田日勝、木田金次郎ら、8作家の個性的な造形世界を一堂に展覧します。このほか「至高の輝き—クリスタルガラスの美」、「アール・ヌーヴォーのガラス」、「日本のガラス」などのガラスコレクションによる展示のほか、「ヨーロッパ版画散歩」、「装いの婦人像」などが開催されます。

特別展の方も、自主企画による充実した内容のものが顔をそろえます。ピカソの版画の全貌とその豊饒なイメージの世界を紹介する「ピカソ版画展」（4月6日～5月5日）、雄渾な筆致で風景を飽くことなく追求した道産子画家田辺三重松の没後20年を記念する「田辺三重松展」（5月9日～30日）がまず年度当初に開催されます。その後開かれる「スペイン絵画展」（6月5日～7月7日）は、スペインのバレンシア州にある聖ピオ5世美術館のコレクションによって、グレコ、ベラスケス、ムリーリョ、ゴヤなどの巨匠を含めた16世紀から19世紀にいたるスペイン絵画の流れをたどるもので、新年度のメインとなる展覧会の一つです。次に開かれる「第4回世界現代ガラス展」（7月14日～8月25日）もその一つとしてあげられるもので、当館がトリエンナーレ形式で開催してきた世界の現代ガラスの現況を伝える国際規模のコンクールです。すでにこの展覧会に対する内外の評価は定着を見せてきたといえますが、今回はコンクール部門の作家も増え、また特別招待部門が3作家に絞られるなど、これまでになかった新たな試みがなされます。

このあとは、パリを舞台に活躍した写真家の多彩な表現を紹介する「写真のエコール・ド・パリ」展（8月31日～9月29日）、日本の伝統的な画題である「花鳥」に焦点を当て、その近代における装飾美の世界を探る「近代日本画の花鳥」展（10月5日～11月24日）が開かれるほか、「子どもと親の美術館'92」や夏休みのサマー・ミュージアムも趣向を変えて開催の予定です。

—北海道立三岸好太郎美術館—



上京直後の三岸好太郎（右）と俣野第四郎

平成3年度は2つの特別展示、所蔵品展、音楽や子どものためのイベントなど様々な事業を計画しています。

夏の特別展示「青春の軌跡—三岸好太郎と俣野第四郎」（仮称、6/1～7/21）では、親友でありライバルでもあった二人の同時期の作品を初めて一堂に紹介します。また春陽会の当時の代表的作家による作品も展示し、二人をとりまく大正末から昭和初期の美術状況もご覧いただけるようになっていきます。苦しい生活の中、創作に情熱を燃やしつつも短い命を閉じた二人の青春の軌跡をご鑑賞ください。

秋の特別展示「挿絵の魅力—三岸好太郎と木村荘八」（仮称、10/3～11/24）では、画家たちのこれまで光のあたりにくかった一面、挿絵の領域での仕事に注目します。三岸のよき先輩であった木村荘八をはじめ優れた画家たちにより、挿絵の世界に従来はみられなかった高い芸術性が開花していく様子や、三岸との影響関係を探ります。三岸にあてた木村荘八の手紙も初公開されます。

所蔵品展では、年間6期に分けてそれぞれテーマを持たせ、三岸の画業の様々な側面にスポットをあてていきます。所蔵品展第Ⅲ期（7/24～9/29）は「線描の魅力」と題して、奔放なひっかき線による作品等を中心に展示しますが、この間の夏休み時期を利用して小中学生向け企画「たんけん美術館」（7/30～8/25）を開催します。ワークシートのクイズに挑戦しながら、子どもの絵のように天真爛漫な雰囲気を持つ三岸の作風に親子で親しむ機会としていただければと思います。ワークショップの開催も予定しています。

好評の美術館コンサート（年3回）、音楽家志望の若手による演奏会、美術館ミニ・リサイタル（年8回）も引き続き実施してまいります。絵画に、音楽に、あるいはコーヒーに心豊かなひとときを当館でお過ごしください。

— 北海道立旭川美術館 —

1月5日(土)から2月17日(日)まで、「所藏品展・旭川の絵画」を開催しています。本展は、当館の所蔵品を中心に、油彩・日本画・水彩・版画約60点により、旭川の絵画の歩みを紹介するものです。

旭川の美術は、大正時代に創立されたスタックカムシュッペ画会により、本格的歩みをはじめ、戦後の復興期を経て、現在にいたっています。スタックカムシュッペ画会に出品した上野山清貢や詩人の小熊秀雄、戦後の新ロマン派協会の中核となった山口信太郎、抽象絵画の村山陽一など、大正期から現代までの旭川を代表する作家たちの作品が出品されています。また、抽象絵画のパイオニア的存在であった難波田龍起や山口正城ら、旭川出身作家の秀作もご覧いただけます。

2月23日(土)から3月24日(日)までは、「北海道・今日の美術—軽やかさとの対話」を開催いたします。本展は道立美術館三館の合同企画により、現代美術を紹介する展覧会の第2回目です。今回は、自由なフォルム、明るい色彩、軽快な構成によって作品を制作する絵画やレリーフの作家9名を紹介いたします。

1980年代以降、軽快なライフスタイルを求める社会的風潮とあまって、抽象絵画の分野でも、明るく洗練された表現が目につくようになってきました。30代を中心とした本展の出品作家が求めるイメージは、こうした現象を敏感に反映するものといえましょう。春先にかけて新しい世代の表現世界をお楽しみください。



「館」佐藤進

— 北海道立函館美術館 —

平成3年度、夏の大きな展覧会として力を入れている展覧会が、「蛸崎波響とその時代展」(8月27日～9月23日)である。蛸崎波響は、江戸時代後期の松前藩主の子として生まれ、藩の存亡に関わる激動期に家老の重責を果たしながら、優美な花鳥や艶麗な人物を描き続けた画人であり、近世北海道が生んだ最初の本格的画人でもある。この展覧会は、波響の画業の全貌とともに、波響の画風に影響を与えた宋紫石、円山応挙ら同時代の画家や、波響の門人たちの作品も合わせて紹介するというもので、全国的な規模での調査研究にもとづいた、波響研究の集大成ともいえるべき展覧会である。

波響展とともに、函館美術館の開設時から暖めてきた企画が、田辺三重松展(4月8日～5月5日)である。田辺三重松は、函館に生まれ、北海道の自然を簡潔なタッチと重厚な色彩で表現した北海道を代表する風景画家で

あり、50年に及ぶ画業を回顧する。

このほか、日本画にとっての近代化とは何であったかとさぐる「大正の日本画」展(5月12日～6月6日)、16世紀後半から近代までの貴重なスペイン絵画を公開する「スペイン美術展」(7月14日～8月18日)、アール・デコ期のモダンなガラスを中心に構成した「ガラスの愉しみ アール・デコから現代まで」(9月29日～11月3日)、約300点の資料で日本と世界のこどもの本を紹介する「こどもの本 1920年代」(11月10日～12月8日)、所藏品展としては、現代書の展覧会を6月15日～7月7日～に開催するほか、翌年1月5日からも予定している。

— 財団法人札幌彫刻美術館 —

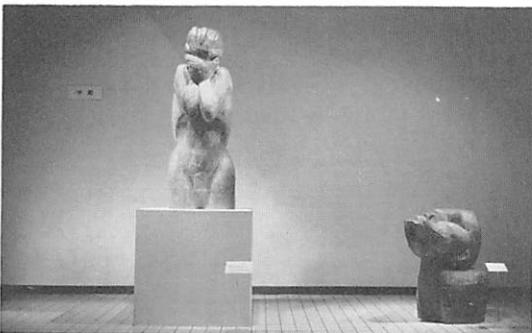
平成2年度後期本郷新常設展では、「手の造形」・「鳥の造形」というテーマによる展示に、裸婦・テラコッタ・木彫・デッサン等を加え、3月末日まで開催しています。

「手の造形」の展示室には、手そのものを表現した作品の他に、昭和13年、本郷新が33歳で制作した『像を持つ』のように大きな手の中に母子を優しく包みこむような作品があります。彫刻家を志ざした当初から、野外彫刻という、公共性の強い彫刻を志向していた本郷新らしい作品といえるでしょう。また、昭和47年鹿児島国体のシンボルモニュメントとして制作された『太陽の賛歌』では、大きな手のひらに躍動的な男女4人が配されています。今回は、このエスキースが初公開され、手をモチーフにした作品が展示されています。

「鳥の造形」の展示室では、本郷新が幼い頃鳥を抱く少女と出会、その記憶をもとに制作した『鳥を抱く女』シリーズの作品。あるいは、江別市開拓記念碑『不死鳥』のエスキースと版画・レリーフ・デッサンなどが展示しています。

2つのテーマの根底には、野外彫刻を前提とした造形追求があるといえましょう。

このほかに、『哭』に代表される木彫、1950年代の裸婦像、素朴で温かみのあるユニークな表現のテラコッタがあります。これらの展示作品の中には、石膏による小品など、未公開作品も多数含まれています。



海外美術研修旅行

ルネッサンスは 今も新しい

熊谷 惇子



平成2年度第11回目の研修旅行は、イタリアの風景と美術館巡りの旅、と題して11月13～25日迄12泊13日の日程で行われました。今回特別に御参加いただいた井関館長を団長に他44名の一行でした。行程は宿泊地順にミラノ、

ベネツィア、ラベンナ、シエナ、アッシジ、ローマで、その他見学した都市は、マントバ、ピサ、サンジミニアーノ、アレツォ、ペルージャ等でした。移動はすべてバスで、中世の都市を巡りながらルネッサンス時代の絵を観るというものです。全体としてはお天気に恵まれ、アウトラダと呼ばれる高速道路は快適でした。訪れた都市の内、4、5世紀東ゴッド帝国の主都として栄えた美しいモザイクの街ラヴェンナを除いては、12、3世紀から15、6世紀に繁栄した都市国家で、その殆んどは丘又は山の上の城壁に囲まれています。それ等の都市は幾らか異った雰囲気を持っているものの、時の流れから取り残された様に落ちて静かな佇まいを見せていました。金融の街としての栄華の面影を今も残すシエナ、薄暮の山の上に忽然と姿を現わした「美しい塔の街」サンジミニアーノ、サンフランチェスコとサンタキアラの至高の愛の物語が一層その印象を深めた巡礼の街アッシジ—そしてトスカーナからウンブリアにかけての丘陵地に行くバスの窓越しに展開する景観の良さは非日常的旅の楽しさを十分に満足させてくれるものでした。

バスが目的地に入る前、団長さんからその街の歴史、特色、美術について解り易い説明をいただくのも大変有難い事でした。これ等行く先々の教会や宮殿の内部はルネッサンスの天才達によって描き残された絵で埋め尽くされています。ミラノのレオナルドの最後の晩餐を始めマンドヴァのゴンザが宮を飾るマンチニヤの絵からアッシジのサンフランチェスコ等のジョットの絵まで唯感心するばかりでしたけれどもローマのシスティナ礼拝堂でミケラ



ンジェロの天井画を観た時、描かれた絵の素晴らしさと同時に人間と云う生物の魂、意志の力について思いめぐらさずには居られませんでした。云い替えるなら信仰の力という事かも知れません。

美術館はミラノのブレラ、ベネツィアのアカデミアを主に観て来ましたが、ルネッサンス美術の集約地と云われるフィレンツェはさすがに圧巻でした。宮殿の壁所狭しとラファエロを始めとする画家達の絵が飾られているピッティ、チマブェ、ジョットの展示から始まっているウフィッツの豪華さはとても筆舌に尽し難いものです。

集合時刻を気にしながらも足は仲々進まず、ボッテチェルリのヴィナスの前ではあまりの美しさに目を見張るばかりでした。一詩を書く様に絵を描く—というルネッサンス美術について幾らかでも理解出来たように思ったのもこの美術館でした。

帰国の日、ローマ空港迄の車中で団長さんから旅のまとめのお話がありました。その中でも特に「ルネッサンスは今も新しいのです」とおっしゃった言葉はハッとする程印象的でした。

此の様にしてつつが無くこの感動的な旅は終わりました。館長さん本当に有難うございました。13日間一つのバスで運命を共にした団員の皆様はじめガイドの西場さんイタリアの運転手さんお世話になりました。終りになりましたがいつも時間を気にしながら真剣に私達をお世話下さったコンダクターの瀬戸さんありがとうございました。またいつの日か皆様と共に楽しい旅をと願って居ります。

イタリアの風景と美術館めぐりの旅

大平 弥生



「旅」この言葉は私をいつも魅了します。

今回の旅は一つの国をじっくりめぐるといふことで、13世紀から16世紀までのイタリアルネッサンス時代をミラノからローマまでゆったり鑑賞できたのではないかと思います。にわか勉強で話のすじや作者の名前も分からなかったけれど、13日間の思い出を綴ってみようと思います。

11月13日夜成田を飛び立ちどんよりと雲のたちこめたミラノに到着、そしてダヴィンチの「最後の晩餐」に再会できた喜びもさることながら、何百年もの年月をかけてできたというゴシック建築のミラノ大聖堂、ドウオモ広場をかこむ壮大なアーケードなどにあらためて驚くばかりでした。けれど秘かにあこがれていたヴェネツィアの夕日を見る事ができなかったのは心残りでした。しかし、そのあとローマに着くまでの間ルネッサンス時代に栄えたという町々は美しいものでした。

それはヴェネツィアからバスで山間いに行く時、こつぜんと現われてきました。私は思わず息をのみ胸がドキドキ鳴ってくるのがわかるようでした。何百年もの歴史を秘めた石づくりの建物、天へとどけと延びている塔、どれ程の人々が歩いたであろう石だたみ、そしてうづまく黒々とした糸杉、かさ松、それらをひきたてるような黄土色の木々、ちぎれ雲、そこに息づく数々の絵画、これらが小高い晩秋の山にそびえる姿は、広大な空のキャンパスにびったりと合いどんな絵よりも勝ると思えました。

特にサンジミニャーノでは12、3世紀ごろ70以上の塔が林立し権力を競ったといひます。今は12本程残って

いるようですが、それが夕やけの空にのびる姿は美しく悲しくみえました。

古都フィレンツェは町ぜんたいが美術館という歴史の重みを感じさせミケランジェロ広場からみるサンタマリアデルフィオーレのオレンジ色の寺院は秋の色に似合いました。

膨大な数々の絵画で頭の中はボーとしていましたがアレツォのサラフランチェスコ聖堂の壁画で作者はピエロ・デラ・フラゴチェスカという人だそうですが、バランスのとれた色の分割、無駄のない幾可学的構成、柔らかな色調、それでいてどんと力強くこのまま現代絵画に通じるのではないかと大熊さんの解説でした。

ウームなるほど一体どんな性格の画家だったんだろう、こんなやさしい絵だものきつと心豊かな人に違いないと確信した次第です。

5年前に又来たいとテレビの泉にコインを投げたローマの夜で、勇気をだして声をかけてごらんと言語の先生に言われたことを思いだし、How do you do と言ってみました。そしたら陽気なアメリカ人は早口でいっぱいしゃべってくれました。さっぱりわからない内容でしたが、ビュウテフル、パノラマ、という単語だけはわかりました。そこで私も両手を広げ、オオビュウテフル、ビュウテフル、パノラマ、ベイリイマツチと連発しました。

言葉が通じなくても目的が同じ旅の出合いは何て楽しいことか、満ちたりたローマの夜でした。

つまらないことを思いつくまま書いてみました。

皆様いろいろありがとう御座居ました。

又の会える日がありますように……………。

会員の入退状況

当会員の入退会の状況は次の表のようになっております。ひとりでも多くの会員が増えるよう会員の皆さんのご協力をお願いいたします。

なお、個人会員数の約20%の方が会費未納となっておりますので会費の納入についてもよろしく願いいたします。

(平成2年12月末現在)

| 会員区分 | 前年度末 会員数 | 本年度新規 加入会員数 | 本年度退 会会員数 | 増減 会員数 | 現在 会員数 |
|--------|-------------|----------------|--------------|-----------|-----------|
| 個人 | 964 | 166 | 88 | 78 | 1,042 |
| 法人 | 75 | 3 | 1 | 2 | 77 |
| 賛助 | 66 | 46 | 64 | △18 | 48 |
| ボランティア | 151 | 19 | 9 | 10 | 161 |
| 合計 | 1,256 | 234 | 162 | 72 | 1,328 |

国内美術研修旅行

アルプスの山々に懷かれ清冽な輝きを放つ高原の美術館の数々。

信州の里 美術の旅

吉田 みさ子

木々に囲まれて堂々たる馬の彫刻がある群馬県立美術館を第一歩に快晴の信州の里をゆく。バスの窓から眺める山々は雄大で美しい。

一日目の宿は小諸、すぐ傍には小諸城跡がある。同室の友人と早朝の散策をするのが私の旅の楽しみの一つである。朝露を踏みしめながら、見知らぬ人と挨拶を交し合う。苔むした石垣と城跡の入口、三の門や大手門など、往時の面影を残して素晴らしい。千曲川を眼下に見ながら「古蹟なる古城のほと云白く……」と島崎藤村の詩を口ずさむ。二日目、民家の庭にたわわに実る柿の木はもの珍らしく、目を奪われているうちに信濃デッサン館に着く。館の後方にある前山寺境内に、室町初期に建てられた茅葺きの三重の塔の美しさに見とれる。デッサン館は素朴で、収蔵の素描コレクションが何か心に残る見学だった。小布施の北斎館の強烈な色彩が印象的だった故か北野美術館の枯山水の日本庭園の景観は少々疲れた身に安らぎを感じた。その日最後の緑山美術館は赤レンガに蔦のはう彫刻を見て、芸術の森のロダン展の作品が一瞬、頭をよぎる。

二日目の宿は松本、名物のサクラ鍋と馬刺しは想像以上においしかった。前日の小諸でいただいた川魚料理と隣席の方から御馳走になった山ぶどうのワインも美味で旅の楽しみが倍加した。早朝、松本城近辺を散歩する。お堀の水面に映えるお城や木々が静かさと共に風情があって素晴らしい。松本を8時出発、ビナスラインの終点、美ヶ原高原美術館に向う。標高2千メートル近くまでの高原地帯を上下しながら走る。バスから眺める紅葉の大パノラマに感動する。高原美術館では野外に立ちつくしている彫刻群がなんと大自然と調和していることか、

感心してしまう。さすがに風は冷たかったが時間ギリギリまで鑑賞した。八ヶ岳アルプスの展望は素晴らしく、再度訪れてみたいと心を残して次の北沢美術館へ。諏訪湖畔に建つ美術館は観光客であふれている。アールヌーヴォーのガラス工芸品と現代日本画の巨匠たちの作品に魅了される。エミールガレの「ひとよ茸ランプ」がひときわ、鮮やかにそこにあった。蓼科高原のマリーローランサン館では中庭のテニスコートで、若い男女が心地よい音を響かせ、白球を追っている。館の中はマリーローランサンの淡く透明感のある色調がやわらかい雰囲気をかもし出している。三日目の宿は甲府、ホテルの小さな温泉でゆったりくつろぐ。旅の最後の夜、カーテンを引き、星空を仰ぎながら明日も快晴である事を確認する。甲府を後にミレーの「種をまく人」で有名な山梨美術館へ行く。館内は大勢の入館者で賑わっていた。庭園のヘンリームーアの彫刻をバックに全員で記念写真を撮る。

アルプスの山々に懷かれ清冽な輝きを放つ高原の美術館の数々……と書いてあるパンフレットを見て、ツアーに参加したが、期待を裏切らない素敵な旅でした。



誤算



工藤 欣弥

芸術の森美術館は平成二年九月二
八日「ロダン展」でオープンした。
さてこの「ロダン展」、どれぐら
い入るかいささか不安であった。都
心から遠いという地理的ハンディが
ある。地下鉄真駒内駅から一五分間
隔でバスがあります。バスに乗れば
芸術の森人口まで一二分、とPRし
てもどこまで浸透するかころもと
ない。館内には固いとこ一万五千と
いう意見がある。私は三万は入ると
読んだ。ところが、五万一千人入っ
た。予想をはるかに超え、休日には
チケット売場に行列ができたほどだっ
た。
うれしい誤算であった。ロダンの
芸術を五万人の人に見てもらえた
よろこびと同時に、新しく札幌にで
きた美術館を知ってもらえたことが
うれしかった。

私と美術館



安藤カヨ子

私が美術館協力会に入会したのは、
五年前の昭和六〇年だと記憶してい
ます。その年私は病いに倒れ、ヨー
ロッパ旅行を諦めたのです。ですか
ら、翌年参加できた時は非常に嬉し
く、「ああ、ピカソに会える」と、
心が弾む思いでした。
私の夢は、画家のロマンや苦しみ、
失望といったさまざまな姿を見たり
感じたりすることでした。協力会の
美の探訪は、すばらしい企画で、夢
を実現するのに良い機会でした。本
でしか見ることのできない絵を目の
前で見ると喜びは、言葉に表わすこ
とができません。絵の技術的な事はわ
かりませんが、ただ感激して見つめ
るだけです。特に昨年東欧の美術館
で見た絵は印象深く、今でもありあ
り目に浮かんでいます。浅学な私
にとって絵は奥深いものであり、美
術館で数多くの本物の絵を見ること
は貴重な体験です。静かに絵と向い
合い感じることで、人生が少しでも
潤いのある豊かなものになればと思っ
ています。

日本亭主は
世界一



佐藤 幸子

カンタベリー大学（ニュージーラ
ンド）にいた頃出会ったNZの男性
の品の良いこと、優しいこと！特に
家庭人は「キウイハズバンド」と呼
ばれて、模範亭主である。何かプレ
ゼントするとすぐ「マイワイフに見
せる」との返事がかえってくる。当
時（一九八九）はロンギ首相の時代
で彼がオノ・ヨーコとジョン・レノ
ンの墓参りをした際、記者とのやり
とりの中でやはり「マイワイフ」が
出た。しかし、そのNZでさえ主婦
がお財布を握っているのは三割に満
たない様である。日本の夫の多くが
妻に家計をまかせせる慣習は明治の頃
にでも始まったのであろうか。女性の
荷物を持ちたり、席を譲ったりする
ことは得手でないものの、妻を信頼
してお財布を預けてくれる日本の亭
主はなんと世界一である。

ひまわり



藤村 好子

北竜町の「ひまわり」をみる日婦
りツアーに参加した。ひまわりとい
えば一九八七年に安田火災がゴッホ
の名画「ひまわり」を五八億円で購
入し世間を驚かせたことが記憶に新
しい。また、ソフィアローレン演ず
る映画「ひまわり」も脳裏に焼き付
いている。戦時中貴重な油資源とし
て植えられ、いまは夏の風物詩とし
て、町おこしの観光資源として役に
立っている。
当日は曇り空の薄暗い日であった。
自然の大きなキャバスの中では、咲
いているたいへんな数の「ひまわり」
は小さく感じられた。みるともう盛
りの過ぎた花は下向きに謙虚にして
いるのもあり、いまを盛りに若さを
誇っている花もあった。
「・・・ゴッホは三七才で逝った。
一発の銃弾と彼のひまわりへの思い
を胸にとじこめたまま・・・」ゴッ
ホに捧げるより

常磐会の動き

旭川美術館は、7月24日で9年目に入りました。小さな力をあわせと少しでも館のお役にしたいという願いで発足しましたボランティアサークル常磐会も、今は小学三年生というところでしょうか。

50名の会員は、各曜日ごと6班に分れておもに喫茶コーナーを担当しております。年数を重ねたせいでしょか「コーヒーがとてもおいしいですね」とお客様にほめていただきますと、素直におうけして喜んで居ります。

特別展の時は、図録の販売もいたします。今年の「竹下夢二展」「ユトリロとモンマルトルの画家たち展」など大変忙しい毎日でしたが、それなりに充実した一日一日を過ごしたという思いがいたします。各班はそれぞれにチームワークもよく、和やかな雰囲気の中に奉仕活動を続けて居ります。

各展示会の始めに常磐会例会が開かれます。連絡事項意見交換等のあと、学芸員から美術展についての講座があり、続いて会場で鑑賞しながら説明をうけ質問にも答えていただき、美術についての新しい知識を深めます。

春にはボランティア活動の成果が認められ、上川管内教育実践表彰をうけました。上川支庁長より賞状とブロンズ製の記念品をいただき、会員一同感激いたしました。

常磐会の特徴と申しましょうか小人数のせいもありますが、よくまとまっていると思います。例会で意見が多



くでもしても決った事柄については協力が得られます。例会、研修旅行、親睦旅行などの出席率がいつも90%以上ということは嬉しいことです。

12月11日に恒例の忘年会が開かれました。美術館職員の皆さんと常磐会が合同で行う会で、今年も全員に近い出席がありました。

磯部館長を始め芸達者な職員の方々、こちらまげじと各グループが考えぬいたしもので会場一杯爆笑が続きゲームにプレゼント交換にと楽しい時をすごしました。

何時も館にお世話になっているような現状ですが、10周年にむかってこれからは活動にはげんでゆきたいと思えます。

旭川美術館常磐会 鈴木 満子

新入会員紹介 (2. 9. 1~2. 12. 31)

9月会員

鈴木 寛子 札幌市中央区宮の森2条12丁目5-10
 多田 弘子 札幌市中央区南18条西14丁目3-11
 森重 正也 札幌市東区北32条東12丁目α-NEXT105号
 酒井 恵子 札幌市中央区宮の森2条2丁目4-119-203
 大倉 禎子 札幌市東区北30条東8丁目
 ライムライト308-201

佐藤 ミツ子 函館市大綱町17-15
 細川 道子 札幌市豊平区平岸1条3丁目
 サンセットハイツ木の花401号

遠藤 節子 札幌市白石区南郷通2丁目北1-12
 後藤田裕子 札幌市中央区大通西21 ハイッ大通306
 熊野 博之 苫小牧市高砂町2-4-15
 宇佐美京子 札幌市北区麻生町5丁目8-6 沢田アパート
 塚越みち子 紋別市本町2丁目
 伊藤 幸子 札幌市厚別区厚別東2条5丁目15-22
 金谷 寛 札幌市中央区南11条西14丁目
 若狭 房雄 札幌市白石区南郷通3丁目北3-21
 市岡 由子 札幌市東区北23条東18丁目6-19

10月会員

坪井 時子 札幌市西区琴似1条1丁目35番1号12-23
 江副美智子 札幌市北区北12条西1丁目14-1
 ファミール北12条1001

森 ミカ子 札幌市豊平区里塚46-44
 金栄 洋子 札幌市西区西野10条8丁目4-11
 田尾美江子 札幌市厚別区大谷地東5丁目7-5
 三浦 允子 札幌市豊平区水車町1丁目2-15
 山本久美子 札幌市中央区南3条西12丁目325
 松本美枝子 札幌市東区北46条東14丁目3-18
 佐分利恵子 札幌市白石区本郷通7丁目北2-1-308
 中川 清江 札幌市白石区菊水上町3条2丁目52番地

福田 幸子 札幌市豊平区美園4条5丁目1-1
 小菅 裕子 札幌市北区屯田2条3丁目8-10
 成田 幸子 札幌市中央区南11条西6丁目1-21
 高下マリ子 札幌市宮の森3条12丁目2-24
 太黒 明子 札幌市北区北10条西3丁目
 藤川 賢治 札幌市中央区南6条西15丁目 道銀南寮内
 林下 忠雄 札幌市中央区南25条西1丁目2-1
 今井美嶺子 札幌市東区北41条東7丁目3-13
 柏木 啓江 札幌市西区西野7条5丁目8-8

11月会員

伝住美恵子 札幌市南区川沿11条1丁目1-25
 佐々木卓哉 札幌市西区福井1丁目14-19
 長谷部恵子 札幌市白石区平和通2丁目北8-22
 奥茂 統子 札幌市豊平区美園11条6丁目3-3
 佐藤 秀一 小樽市最上1-30-20
 瀬戸美佐子 札幌市中央区南3条西8丁目7-909
 前鼻夫巴子 札幌市白石区南郷通6丁目北3-21
 斎藤 君代 札幌市南区澄川3条5丁目3-17

12月会員

三浦 由佳 札幌市東区伏古6条4丁目1-21
 赤間 晃 札幌市北区北30条西6丁目4-7
 山田 浜子 小樽市オタモイ3-2-5
 渡部 紀子 札幌市手稲区前田5条12丁目8-22
 佐伯 敬子 札幌市中央区南20条西7丁目
 堀内 房子 札幌市豊平区中ノ島1条3丁目
 武内 幸枝 札幌市中央区南10条西20丁目2-25
 斎藤麻里子 札幌市中央区南6条西8丁目

ノースイースト創成805
 菊地 早苗 札幌市手稲区富丘3条1丁目9-8
 三浦 慎司 札幌市白石区本通17丁目9-5
 北の峰ハイッ1号室
 松田 軌子 札幌市中央区北1条西21丁目46-31
 ライオンズマンション表参道703